

2013 Japan ANSYS Conference

講演時間	2013年5月30日 15:20～16:10
講演タイトル	数値風洞の最前線 ～竜巻の予測から風力発電所の最適配置まで～
講演者	<p>東京大学大学院工学系研究科</p> <p>社会基盤学専攻 教授 石原 孟 様</p>  <p>1962年 北京生まれ。東京工業大学理工学研究科土木工学専攻博士課程終了後、清水建設(株)・技術研究所に研究員として入社。超高層建築物の耐風設計、建物内外の環境シミュレーション及びそれに関連する技術開発に従事。2000年4月に東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻の助教授として採用。2004年11月より総合研究機構連携工学部門の助教授として「安全安心社会の構築のための短・長期風環境予測システムの開発」、「気象予測に基づく風力発電量予測システムの開発」、「浮体式洋上風力発電に関する研究」などのプロジェクトを推進。2008年4月に教授に昇進。長大橋をはじめ、電力システム、交通システムにおける耐風工学の研究に従事するとともに、風力エネルギー利用のための賦存量評価、風力発電量のリアルタイム予測、風力発電設備の耐風設計、浮体式洋上風力発電システムの開発等の研究を行っている。</p>
講演概要	<p>第1回数値風工学国際会議(First International Symposium on Computational Wind Engineering – CWE 92)は1992年に東京で開かれてから、20年が経ちました。数値流体解析は風工学のあらゆる分野で利用され、予測時間・精度・コストの面において、いまは風洞実験を凌ぐレベルに達している。本講演では自然風の中で最も複雑な挙動を示す竜巻の予測から現在世界で大規模に展開されている風力発電所の最適配置まで数値流体解析の最新研究成果を風洞実験と対比しながら、動画などによりご紹介する。</p>